

日本語の韓国語表記について

金 泰 虎

問題の所在

第1章 現行の日本語の韓国語表記

(1) 50音の韓国語表記

(2) 長音の表記における問題点

第2章 日本語の正確な韓国語表記をめぐる模索

(1) 「か」段・「た」段・「ば」段の表記

(2) 「ん」の表記

(3) 「か」段・「た」段の表記

第3章 「日本語の韓国語表記試案」

結びにかえて

キーワード：韓国語、日本語、長音表記、短音表記、激音、濃音、清音、濁音、ローマ字表記法試案、日本語の韓国語表記試案

問題の所在

韓国は、日本の植民地支配から解放されて以来、基本的に日本文化の上陸を拒み続けてきた。反日感情のもとで日本文化に対する門戸を固く閉ざしていたのである。ところが、一九八〇年代には韓国の大統領が日本を公式訪問し、一九九〇年代に入ってからグローバル化する世界経済の流れとも相まって、日本文化に対する門戸を徐々に開きつつ、特に金大中政権が発

足して日本の大衆文化の輸入を公式に認めた⁽¹⁾。したがって、最近では日韓における文化の交流が日増しに強まる傾向にあり、日本の映画・漫画・雑誌はもとより韓国語訳された日本の文学作品が紹介され、また日本の演歌や演劇も韓国で披露できるようになっている⁽²⁾。今や日韓の活発な文化交流の時代を迎えたと言える。

このような時代の変化に伴って、日本に関するニュースも韓国の新聞によく掲載されるようになった。さらに、書物・看板なども日本の地名・人名、引いては一般の単語に至るまで、韓国語で記されているのをよく目にする。

ところが、韓国における日本に関する記事の増加に比例して日本語の韓国語表記の不正確さがよく目に付くことにもなる。その理由は、日本語を韓国語で表記する現行の方法が正確ではないので、急増する日本関連の記事は、本来の日本語の発音と乖離する不正確な部分を多く露呈する結果となっている。

例えば、以下の事例は日本語を韓国語で表記する際、不正確である。つまり、日本語の語頭の清音を激音として表記しないことによつて、清音や濁音の表記と一体になってしまうこと、[つ]を[쓰]と表記して実際の日本語の音声の

(1) 金大中氏が大統領に就任して日本を公式訪問した際、日本の文化の受入れを公式に表明したと各マスコミは報道している。

(2) 韓国が日本文化の受入れを発表してから、すでに日本の映画が韓国で上映されており、今後も続けられるものと思われる。

「ㅈ」とはかけ離れていること、「ㄴ」を一律に「ㄷ」と表記して「ㄹ」と「ㅇ」の音声を表していないこと、そして日本語の長音を文字として表記しないことなどが取り上げられる。

本稿では、韓国の「国立国語研究院」が発表した「ローマ字表記法試案」⁽³⁾、つまり韓国語のローマ字表記において本来の韓国語とは甚だしい乖離があるので、これを是正するために出した「ローマ字表記法試案」に学びつつ、現行の日本語の韓国語表記にはいかなる問題点があるのかを分析する。

この分析に基づいて、是正の余地がある部分については、実際の日本語の発音に一番近い表記を模索する。この際、韓国語の表記法、例えば文字で長音を表記しないことのようなルールに縛られず、できるだけ日本語に近い表記を考えていく。このため、日本語を韓国語に表記した単語リストを日本人に聞き取らせる方法をとって、その結果に基づいて「日本語の韓国語表記試案」をつくることにする。その聞き取り手は、近畿地方のK・R・O大学に在学している112人の日本人学生である。

現行の日本語の韓国語表記における問題を正して、正確な表記を目指す試みは、韓国人の日本語学習にも役に立つものと思われる⁽⁴⁾。

第1章 現行の日本語の韓国語表記

本章では、現行の日本語の韓国語表記におい

てはいかなる問題があるのか、その実態の分析を行うことにする。

(1) 50音の韓国語表記

本節では50音を取り上げて韓国語でいかに表記しているか、現状を把握した上で問題のある部分について触れていきたい。

㉔「現行の50音の韓国語表記」

あ段

아아 이이 우우 에에 오오

*か段

카카 키키 쿠쿠 케케 코코

が段

가가 기기 구구 게게 고고

さ段

사사 시시 수수 세세 소소

ざ段

자자 지지足足 제제 조조

*た段

타타 치치 ㅈㅈ 테테 토토

だ段

다다 지지 ㅈㅈ 데데 도도

な段

나나 니니 ㄴㄴ ㄴㄴ ㄴㄴ ㄴㄴ

は段

하하 히히 ㅎㅎ ㅎㅎ ㅎㅎ

ば段

바바 비비 부부 베베 보보

(3)「ローマ字表記法試案」(『朝鮮日報』、1999年11月18日、韓国)。この「ローマ字表記法試案」による子音の表記に限ってみれば、従来は「ㄱ・ㄷ・ㄴ・ㅇ・ㅈ」をそれぞれ「k・t・p・ch」と表記してきたが、今後は「g・d・b・j」で表記するとのことである。ところが、ごく最近「朝鮮日報」(2000年7月5日、韓国)は、7月4日付けで韓国の「文化観光部」が「ローマ字表記法試案」を確定したと報じた。「ローマ字表記法試案」=「確定案」に合わせた表記は、教科書・

出版物を2000年2月末、また道路の表示板・文化財の案内板を2005年12月末までに順次替えていく。但し、著名人・会社・団体名などは、従来通り表記する例外措置も設けるとする。

(4) 外国人に韓国語を教えるための発音表記については、拙稿「日本における韓国語学習用テキストの発音記号と学習者」(『東アジア研究』28号、大阪経済法科大学アジア研究所、2000年)を参照されたい。

ば段				
바파	비피	부푸	베페	보포
ま段				
마마	미미	무무	메메	모모
や段				
	유유		요요	
ら段				
라라	리리	루루	레레	로로
わ段				
와와			을오	
* <u>ん</u>				
ㅈ				

以上、韓国で50音をいかに表記しているのか確認してきたが、*のアンダーライン部分は表記上において問題がある。では、*印には表記上におけるいかなる問題があるのか検討する。

まず、*のアンダーライン部分の「か」段と「た」段を取り上げてみる。例えば、以上で取り上げた現行の日本語の韓国語表記で「餓死」[か]し]を表記すれば、[가시]となる。ところが、「菓子」[かし]も、また [가시] となる。つまり、語頭にくる「か」と「か」が同じく [가] と表記されている。語頭にくる日本語の清音を、韓国語表記に当たって激音ではなく、平音で表記しているからである。

これについて、もっと調べることにしよう。例えば、「貝」[かい]や「害」[がい]が [가이]、[桐] [きり]や「義理」[ぎり]が [기리] と表記される。つまり、それぞれの同音異義語ではない単語が韓国語では同音異義語になってしまう。そして「他者」[たしゃ]や「打者」[だしゃ]

が韓国語の [다샤]、[虎] [とら]や [도라] [どら]が [도라] と表記される。「か」段と「た」段の単語が「か」段や「た」段と同音異義語になってしまい、表記に問題があるのは明らかである。

ところが、「現行の50音の韓国語表記」では「か」段と「た」段の表記に当たって、日本語の清音を韓国語の激音、濁音を平音でそれぞれ表記しており、清音と濁音の区別にさしあたり問題はない。但し、語頭にくる日本語の清音を激音として表記せず、平音として表記することによって語頭の清音と濁音が韓国語表記においては同じ発音になるという問題が発生している。

このように日本語の韓国語表記が正確ではないのは、日本語のローマ字表記からも確認できる。例えば、日本では「近畿」(地名)を「Kinki」と表記し、「Ginki」とは表記しない。これを一九九九年、韓国の「国立国語研究院」が発表した「ローマ字表記法試案」に照らし合わせて表記すると、前者は [킨키]、後者は [긴키] となり⁽⁵⁾、現行の韓国語表記は「近畿」を後者のように記している。

また、現行の日本語の韓国語表記は「東京」(地名)を [도쿄] と表記する。ところが、日本における「東京」のローマ字表記は「Tokyo」であり、「Dokyo」とは表記しない⁽⁶⁾。同じく「Tokyo」を、韓国の「国立国語研究院」が発表した韓国語の「ローマ字表記法試案」にならえば、[토쿄] となるが、現行では [도쿄] と表記される。

このように語頭の日本語の清音に対して、激音表記を避けて平音に表記する現行の韓国語の表記によって、韓国語で表記した日本語発音と

(5) 前掲「ローマ字表記法試案」、前掲拙稿「日本における韓国語学習用テキストの発音記号と学習者」

(6) 日本語のローマ字表記も長音を表記していない問題点がある。例えば、「東京」は「Tokyo」であるが、長音の表記をした場合は「Toukyou」となる。

実際の日本語とは乖離が生じている。このことは韓国人の日本語の発音にまで影響を及ぼすと思われる。例えば、現行の表記であれば、「金」[きん]と「銀」[ぎん]は同じく[ɲ]になってしまい、区別が付かない。日本語の学習を目指している学習者にも多大な影響を与えているに違いない。

一方、二重アンダーラインの[つ]を[쓰]に表記するのも問題がある。例えば、「対馬」[つしま]（地名）を[쓰시마]と表記しており、日本語とはかけ離れた発音に聞こえる（この点については第2章を参照されたい）。

また、「ん」については、例えば「心齋橋」[しんさいばし]（地名）や「難波」[なんば]（地名）、「丹後」[たんご]（地名）を、それぞれ[신사이바시]、[남바]、[탕고]とし、一律に「ん」を「ㄴ」で表記する。しかし、この地名の日本語でのローマ字表記は、それぞれ「Shinsaibashi」、「Namba」、「Tango」である。これをさらに、一九九九年、韓国の「国立国語研究院」が発表した「ローマ字表記法試案」に基づいて直せば、[신사이바시]、[남바]、[탕고]と書くことができる。したがって、現行の表記は日本語の実際の音声とかけ離れていることがわかる。

このように現行の日本語の韓国語表記、つまり「語頭の激音表記を避けて平音に表記すること」や[つ]を[쓰]、そして「ん」を一律に「ㄴ」と表記するのは問題があり、改善が求められる。

（２）長音の表記における問題点

本節では、長音の表記にはいかなる問題点があるのか調べて行きたい。

日本語と韓国語は、その意味が、声調ではな

く、長・短音によって区別される。したがって、長音か、または短音かによって言葉の意味が変わってくる。それにもかかわらず、韓国語では長音を文字として表さない。それで長音と短音は区別しにくく、文脈からか、または発音の際に長短を区別する。例えば、その代表的な事例としては、「말」(馬)と「말:」(言葉)のがある。形は同じであるが、前者が短音で、後者が長音である。

一方、日本語は長音を文字で明記して発音する。例えば、[おおむら]（大村）と書いて、文字で長音の表記をする。

ところが、日本語の韓国語表記においてはどうかであろうか。例えば、小村 [おおむら]（人名）を[오무라]と記し、大村 [おおむら]（人名）も[오무라]と表記する。また、「組織」[そしき] [소시키] や「葬式」[そうしき] [소시키]、そして「小林」[おばやし]（地名）[오바야시] や「大林」[おおばやし]（人名）[오바야시]、「小坂」[おさか]（地名）[오사카]、「大阪」[おおさか]（地名）[오사카]と表している。

異なる日本語が、現行の日本語の韓国語で表記すれば同音になっている。つまり、日本語の長音を文字で明記しないので、同音異義語ではない単語が同音異義語になってしまう。

以上、現行における日本語の韓国語表記において、語頭の激音表記を避けて平音に表記すること、や[つ]を[쓰]、「ん」を一律に「ㄴ」と表記すること、そして日本語の長短音を区別しないことは、本来の日本語の発音や意味とかけはなれる問題点がある。次章では、正確な日本語の表記を目指すに際しての問題点を中心に、聞き取りの調査を行い、正確な表記を探ることにする。

（７）長音の表記「:」は、便宜上つけたものである。

第2章 日本語の正確な韓国語表記を めぐる模索

本章では、すでに第1章で触れた問題点を取り上げて、いかなる表記をすればもつとも日本語に近い発音の表記ができるのかを模索して行きたい。日本語を韓国語で表記したものを日本人に聞き取らせて、より日本語の発音に近い表記を採ることにする。

(1) 「か」段・「た」段・「ば」段の表記

日本語の韓国語の表記に当たって、日本語の清音を韓国語の激音、または濃音で表記する二つのケースを見ることができる。前者は韓国、後者は北朝鮮側の表記によく見られる。まず、「か」段・「た」段・「ば」段を取り上げてみる。

(か段) か카 키키 く쿠 け케 こ코

(가) (기) (구) (계) (고)

(た段) た타 치치 つ쓰 て테 と토

(타) (치) (쓰) (테) (토)

(ば段) ば파 피피 부부 पे페 ぼ포

(바) (피) (부) (페) (포)

表記で激音と濃音で分かれていることについては、語頭・語中・語尾の三種類の単語リストをつくり、どちらがより日本語に近い表記であるのかを調べる。この語頭・語中・語尾の三種類の単語を、それぞれ激音・濃音・平音で表記し、それを日本人学生に聞き取らせて、判断することにする。この際、学生には例えば「傘[かさ] ①、②、③」のように問題を出し、①・②・③の激音・濃音・平音をそれぞれ読み上げて、「傘」の発音に一番近い番号に丸印をつけるように指示した。

④単語リスト

(8) 韓国では、語頭・語中・語尾の「つ」を「쓰」と表

(か) a 傘 [かさ] ①카사②까사③가사

b 堺 [さかい] (地名)

①사카이②사까이③사가이

c 坂 [さか] ①사카②사까③사가

(き) a 岸 [きし] (人名) ①키시②끼시③기시

b 模野 [まきの] (人名)

①마키노②마까노③마기노

c 長崎 [ながさき] (地名)

①나가사키②나가사끼③나가사기

(く) a 呉 [くれ] (地名) ①쿠레②꾸레③구레

b 枕 [まくら]

①마쿠라②마꾸라③마구라

c 柵 [さく] ①사쿠②사꾸③사군

(け) a 蹴鞠 [けまり]

①케마리②께마리③게마리

b 負ける [まける]

①마케루②마께루③마게루

c 酒 [さけ] ①사케②사께③사게

(こ) a 腰 [こし] ①코시②꼬시③고시

b 凝り [しこり]

①시코리②시꼬리③시고리

c 最古 [さいこ]

①사이코②사이꼬③사이고

(た) a 森谷 [もりたに] (人名)

①모리타니②모리따니③모리다니

b 慕う [したう]

①시타우②시따우③시다우

c 森下 [もりした] (人名)

①모리시타②모리시따③모리시다

(ち) a 地図 [ちず] ①치즈②찌즈③지즈

b 待合い [まちあい]

①마치아이②마찌아이③마지아이

c 道 [みち] ①미치②미찌③미지

(つ) a 対馬 [つしま] (地名)

①츠시마②쯔시마③즈시마⁽⁸⁾

記しているが、この点については本章の3節で取りノ

- b 薩摩 [さつま] (地名)
 ①사츠마②사쯔마③사즈마
- c 市立 [しりつ]
 ①시리츠②시리쯔③시리즈
- (て) a 寺 [てら]
 ①테라②테라③테라
- b 指定 [してい]
 ①시테이②시페이③시데이
- c すべて [すべて]
 ①스베테②스베떼③스베데
- (と) a 鳥 [とり] ①토리②토리③토리
- b 等しい [ひとしい]
 ①히토사이②히토사이③히도사이⁽⁹⁾
- c 水戸 [みと] (地名)
 ①미토②미또③미도
- (ば) a ばらりと [ばらりと]
 ①파라리또②빠라리또③바라리또⁽¹⁰⁾
- b 心配 [しんぱい]
 ①심파이②심빠이③심바이⁽¹¹⁾
- c 新派 [しんぱ]
 ①심파②심빠③심바
- (び) a びりつと [びりつと]
 ①피릿또②빼릿또③비릿또
- b 反比例 [はんぴれい]
 ①함피레이②함빼레이③함비레이
- c 神秘 [しんぴ] ①심피②심빼③심비
- (ぶ) a ぶんぶん [ぶんぶん]
 ①푼뽕②뽕뽕③뽕뽕
- b 反復 [はんぷく]
 ①함푼꾸②함뽕꾸③함부꾸

- c 神父 [しんぶ] ①심푼②심뽕③심부
- (べ) a べろりと [べろりと]
 ①페로리또②빼로리또③베로리또
- b 新兵 [しんべい]
 ①심페이②심빼이③심베이
- c コンペ [こんぺ] ①콤페②콤빼③콤베
- (ぼ) a ぼろり [ぼろり]
 ①포로리②뽀로리③보로리
- b すぽんと [すぽんと]
 ①스푼또②스뽀또③스븐또
- c 進歩 [しんぽ] ①심포②심뽀③심보

以上、「か」段・「た」段・「ば」段について、以下の結果が得られた。これに基づいて整理したのが、次の表(一)「か・た・ば」段の韓国語表記である。

表(一)「か・た・ば」段の韓国語表記

		①激音		②濃音		③平音	
		人	%	人	%	人	%
か	a	100	89.29	10	8.93	2	1.79
	b	18	16.07	94	83.93	0	0
	c	12	10.71	100	89.29	0	0
き	a	99	88.39	10	8.93	3	2.68
	b	9	8.04	102	91.07	1	0.89
	c	13	11.61	99	88.39	0	0
く	a	105	93.75	3	2.68	4	3.57
	b	16	14.29	96	85.71	0	0
	c	12	10.71	99	88.39	1	0.89
け	a	102	91.07	8	7.14	2	1.79
	b	9	8.04	103	91.96	0	0
	c	18	16.07	93	83.04	1	0.89
こ	a	101	90.18	11	9.82	0	0
	b	14	12.05	98	87.50	0	0
	c	15	13.39	96	85.71	1	0.89

へ上げることにする。

(9) ここで、[이] は長音に当たる。現行の日本語の韓国語表記であれば、[이] を省略すべきであるが、本章の4節の結果に基づいて[이] を省略せず表記する。以下では4節に基づいて書いていく。

(10) ここで[ㅌ] は、上の「と」段の結果に従っている。つまり、現行の韓国語の表記である[토] より、[ㅌ]

が日本語の発音に近いという結果が得られたので、[ㅌ] で表記する。以下では、新たに得られた結果に基づいて記す。

(11) 本章の2節で、「ん」が「ば」段の前では「로」と表記した方が、日本語の発音に近いという結果が得られたので、それに基づいて書くことにする。以下からも同様に表記する。

た	a	96	85.71	13	11.61	3	2.68
	b	20	17.86	92	82.14	0	0
	c	15	13.39	97	86.61	0	0
ち	a	85	75.89	22	19.64	5	4.46
	b	18	16.07	94	83.93	0	0
	c	18	16.07	94	83.93	0	0
つ	a	8	7.14	103	91.96	1	0.89
	b	7	6.25	105	93.75	0	0
	c	10	8.93	102	91.07	0	0
て	a	99	88.39	9	8.34	4	3.57
	b	17	15.18	94	83.93	1	0.89
	c	15	13.39	96	85.71	1	0.89
と	a	97	86.61	8	7.14	7	6.25
	b	22	19.64	88	78.57	2	1.79
	c	12	10.71	100	89.29	0	0
ぱ	a	78	69.64	32	28.57	2	1.79
	b	20	17.86	90	80.36	2	1.79
	c	14	12.5	98	87.5	0	0
ぴ	a	74	66.07	35	31.25	3	2.68
	b	23	20.54	89	79.46	0	0
	c	17	15.18	91	81.25	4	3.57
ぶ	a	69	61.61	41	36.61	2	1.79
	b	28	25.00	84	75.00	0	0
	c	16	14.29	93	83.04	3	2.68
べ	a	69	61.61	38	33.93	5	4.46
	b	32	28.57	80	71.43	0	0
	c	24	21.43	86	76.79	2	1.79
ぼ	a	77	68.75	35	31.25	0	0
	b	30	26.79	81	72.32	1	0.89
	c	26	23.21	85	75.89	1	0.89

表(一)「か・た・ぱ」段の韓国語表記を分析すると、「か」段・「た」段・「ぱ」段における語頭の清音の発音は、韓国語の激音の傾向が強く、語中や語尾における発音は濃音の傾向が強い。したがって、語頭の清音は激音、語中や語尾の清音は濃音で表記したほうが、より日本語に近い表記であることが分かる。

以上の結果をより理解しやすいように示したのが、図(1)・(2)・(3)である(次項に掲載する)。

図(1) 語頭における清音の韓国語表記

図(2) 語中における清音の韓国語表記

図(3) 語尾における清音の韓国語表記

図(1)を見ると、語頭の日本語の清音は、濃音や平音より激音で表記したほうがいい結果が出た。また、図(2)と図(3)からは、語中や語尾における日本語の清音は、激音や平音より濃音の表記がより日本語の発音に近いことが分かる。

(2)「ん」の表記

現行の日本語の韓国語表記では「ん」を一律に「ㄴ」と表記しているが、果たして正確な表記であるのか、またどのように表記すれば、より日本語の発音に近い韓国語の表記ができるか聞き取りの調査を行う。この際、学生には例えば「参加【さんか】①、②、③」のように問題を出し、①・②・③をそれぞれ読み上げて、「ん」に一番近い発音の番号に丸印をつけるように指示した。

@単語リスト

か段

- a 参加【さんか】①산까②산까③산까
- b 満期【まんき】①만끼②만끼③만끼
- c 辛苦【しんく】①신꾸②실꾸③실꾸
- d 新家【しんけ】①신계②실계③실계
- e 何個【なんこ】①난꼬②날꼬③날꼬

が段

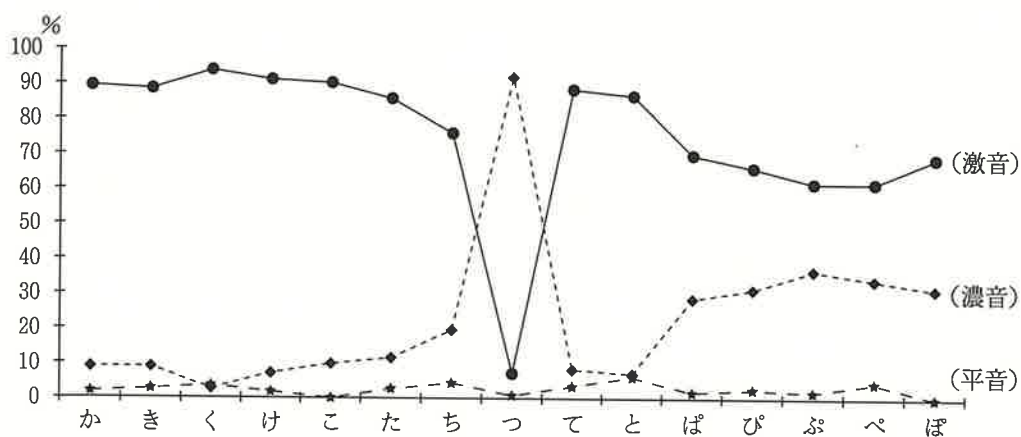
- a 漫画【まんが】①만가②만가③만가
- b 審議【しんぎ】①신기②실기③실기
- c 民具【みんぐ】①민구②밀구③밀구
- d 懺悔【ざんげ】①잔계②잘계③잘계
- e 単語【たんご】①탄고②탈고③탈고⁽¹²⁾

さ段

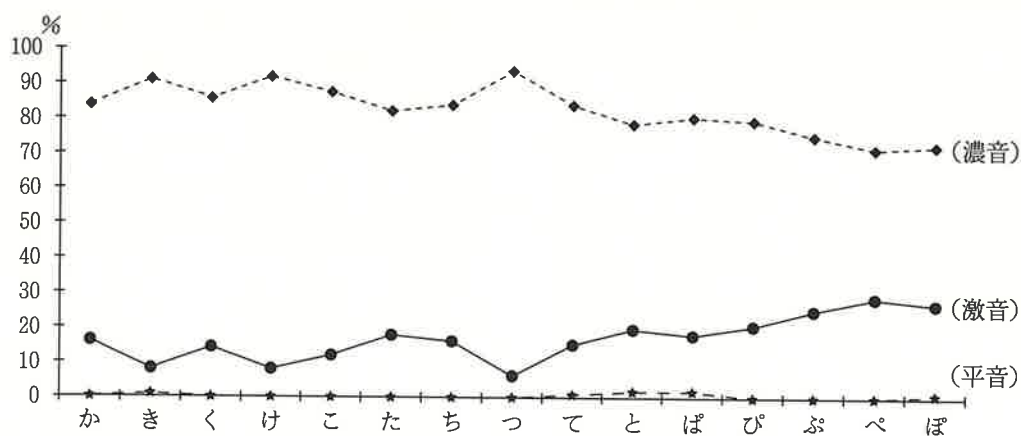
- a 心齋橋【しんさいばし】(地名)

(12) 本章の1節と3節に基づいて、語頭にくる日本語の清音を韓国語の激音で表記する。以下でも1節と3節

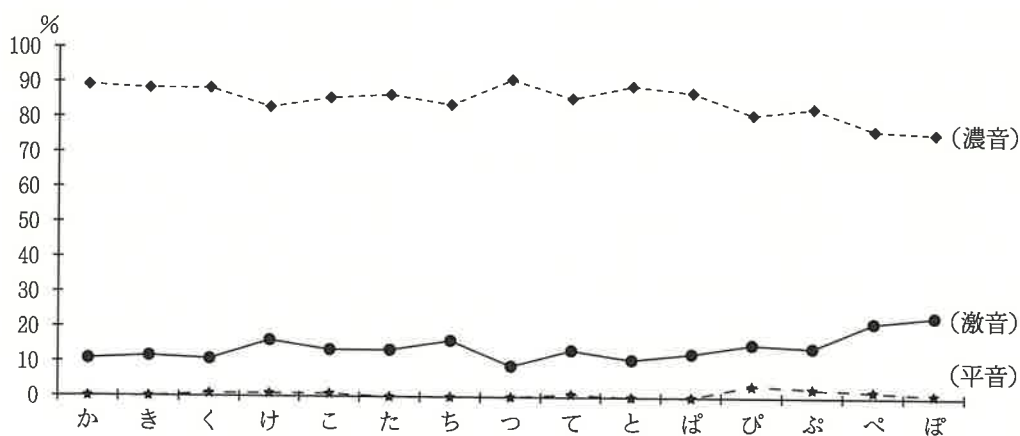
で得られた結果に基づいて表記していく。



図(1) 語頭における清音の韓国語表記



図(2) 語中における清音の韓国語表記



図(3) 語尾における清音の韓国語表記

①신사이바시②실사이바시③싱사이바시⁽¹³⁾

b 紳士 [しんし] ①신시②실시③싱시

c 陳す [ちんす] ①친스②칠스③칭스

d 賛成 [さんせい]

①산세이②삼세이③상세이

e 免訴 [めんそ] ①멘소②멜소③멩소

ざ段

a 捻挫 [ねんざ] ①넌자②넴자③냉자

b 人事 [じんじ] ①진지②질지③질지

c 杏 [あんず] ①안즈②암즈③알즈

d 軍勢 [ぐんせい]

①군제이②굴제이③궁제이

e 心臓 [しんぞう]

①신조우②실조우③싱조우

た段

a 艦隊 [かんたい]

①칸타이②칼타이③캉타이

b 民地 [みんち] ①민찌②뎡찌③밍찌

c 鎮痛 [ちんつう]

①친쯔우②칠쯔우③칭쯔우

d 謹呈 [きんてい]

①킨테이②킬테이③킹테이

e 信徒 [しんと]

①신또②실또③싱또

だ段

a 三田 [さんだ] (地名)

①산다②삼다③상다

b 汝 [なんぢ] ①난지②날지③낭지

c 缶詰 [かんづめ]

①칸즈메②칼즈메③캉즈메

d 塩田 [えんでん] ①엔뎡②엘뎡③앵뎡

e 温度 [おんど] ①온도②울도③웅도

な段

a 県内 [けんない]

①켄나이②켄나이③켄나이

b 兼任 [けんにん] ①켄닝②켄닝③켄닝

c 去んぬる [さんぬる]

①산누루②삼누루③상누루

d 半値 [はんね] ①한네②합네③할네

e 天王寺 [てんのうじ] (地名)

①텐노우지②탐노우지③탕노우지⁽¹⁴⁾

は段

a 前半 [ぜんはん] ①젠항②젼항③쟁항

e 単本位 [たんほんい]

①탄홍이②탈홍이③탕홍이

ば段

a 難波 [なんば] (地名)

①난바②남바③낭바

b 軍備 [ぐんび] ①군비②굴비③궁비

c 幹部 [かんぶ] ①칸부②칼부③캉부

d 鑑別 [かんべつ]

①칸베쯔②칼베쯔③캉베쯔

e 願望 [がんぼう]

①간보우②감보우③강보우

ぱ段

a 心配 [しんぱい]

①신파이②실파이③싱파이

b 神秘 [しんび] ①신삐②실삐③싱삐

c 神父 [しんぶ] ①신뿌②실뿌③싱뿌

d 新兵 [しんべい]

①신페이②실페이③싱페이

e 進歩 [しんぽ] ①신뽀②실뽀③싱뽀

ま段

a 本町 [ほんまち] (地名)

(13) 「心斎橋」のローマ字表記である「Shinsaibashi」からみても、「さ」段の前になる「ん」は「ㄴ」と表記すべきであろう。

(14) 日本でのローマ字表記は「Tennoji」である。したがつ

て、「な」段の前の「ん」は「ㄴ」と表記すべきである。
(15) 「ま」段の前になる「ん」の発音である「本町」のローマ字表記は「Hommachi」であるので「ま」段の前になる「ん」は「ㄹ」と表記すべきである。

- ①혼마찌②흠마찌③흥마찌⁽¹⁵⁾
- b 酸味 [さんみ] ①산미②삼미③삼미
- c 残務 [ざんむ] ①잔무②잠무③장무
- d 任命 [にんめい]
- ①닌메이②넌메이③녕메이
- e 進物 [しんもつ]
- ①신모쯔②심모쯔③싱모쯔
- や段
- a 深夜 [しんや] ①신야②심야③싱야
- c 禁輸 [きんゆ] ①킨유②김유③깁유
- e 信用 [しんよう]
- ①신요우②심요우③싱요우
- ら段
- a 近来 [きんらい]
- ①킨라이②킴라이③깁라이
- b 万里 [ばんり] ①반리②밤리③방리
- c 満塁 [まんらい]
- ①만루이②말루이③망루이
- d 参列 [さんれつ]
- ①산레쯔②삼레쯔③상레쯔
- e 山麓 [さんろく]
- ①산로꾸②살로꾸③상로꾸
- わ段
- a 電話 [でんわ] ①덴와②뎡와③멧와
- e 缶を [かんを] ①칸오②캄오③깁오
- 語尾
- a 蜜柑 [みかん] ①미깁②미깁③미깁

以上の単語リストに基づく聞き取り調査の結果をまとめたのが、表(二)「ん」の韓国語表記である。

表(二)「ん」の韓国語表記

		①「ㄴ」		②「ㄹ」		③「ㅇ」	
		人	%	人	%	人	%
か段	a	31	27.68	4	3.57	77	68.75
	b	35	31.25	1	0.89	76	67.86
	c	35	31.25	0	0	77	68.75

が段	d	33	29.46	0	0	79	70.54
	e	30	26.79	0	0	82	73.21
	a	27	24.11	2	1.79	83	74.11
	b	37	33.04	1	10.89	74	66.07
	c	39	34.82	0	0	73	65.18
さ段	d	37	33.04	0	0	75	66.96
	e	31	27.68	1	0.89	80	71.43
	a	103	91.96	4	3.57	5	4.46
	b	109	97.32	2	1.79	1	0.89
	c	109	97.32	2	1.79	1	0.89
ざ段	d	109	97.32	3	2.68	0	0
	e	97	86.61	3	2.68	12	10.71
	a	109	97.32	0	0	3	2.68
	b	109	97.32	1	0.89	2	1.79
	c	104	92.86	1	0.89	7	6.25
た段	d	110	98.21	0	0	2	1.79
	e	110	98.21	0	0	2	1.79
	a	99	88.39	1	0.89	12	10.71
	b	93	83.04	1	0.89	18	16.07
	c	104	92.86	0	0	8	7.14
だ段	d	98	87.50	2	1.79	12	10.71
	e	107	95.54	0	0	5	4.46
	a	107	95.54	1	0.89	4	3.57
	b	109	97.32	2	1.79	1	0.89
	c	89	79.46	2	1.79	21	18.75
な段	d	99	88.39	0	0	13	11.61
	e	106	94.64	2	1.79	4	3.57
	a	99	88.39	1	0.89	12	10.71
	b	104	92.86	0	0	8	7.14
	c	108	96.43	1	0.89	3	2.68
は段	d	105	93.75	0	0	7	6.25
	e	108	96.43	0	0	4	3.57
	a	84	75.00	0	0	28	25.00
	e	80	71.43	1	0.89	31	27.68
ば段	a	38	33.93	73	65.18	1	0.89
	b	35	31.25	77	68.75	0	0
	c	30	26.79	82	73.21	0	0
	d	39	34.82	72	64.29	1	0.89
	e	34	30.36	7	6.25	0	0
ぱ段	a	32	28.57	78	69.64	2	1.79
	b	37	33.04	74	66.07	1	0.89
	c	30	26.79	82	73.21	0	0
	d	36	32.14	72	64.29	4	3.57
	e	34	30.36	77	68.75	1	0.89
ま段	a	32	28.57	80	71.43	0	0
	b	40	35.71	71	63.39	1	0.89
	c	32	28.58	79	70.54	1	0.89
	d	38	33.93	74	66.07	0	0
	e	39	34.82	71	63.39	2	1.79
や段	a	37	33.04	3	2.68	72	64.29

	c	41	36.61	1	0.89	70	62.50
	e	40	35.71	0	0	72	64.29
ら段	a	101	90.18	3	2.68	9	8.04
	b	106	94.64	0	0	6	5.36
	c	110	98.21	0	0	2	1.79
	d	105	93.75	2	1.75	5	4.46
	e	109	97.32	1	0.89	2	1.79
わ段	a	5	4.46	1	0.89	106	94.64
	e	7	6.25	0	0	105	93.75
語尾	a	33	29.46	11	9.82	68	60.71

以上、表(二)「ん」の結果を見ると、「ん」を韓国語で表記する時、それぞれ「ㄴ」・「ㄹ」・「ㅇ」と区別する必要がある。つまり、「ん」が「さ・ざ・た・だ・な・は・ら」段の前にきた場合は「ㄴ」、「ば・ぱ・ま」段の前では「ㄹ」、そして「か・が・や・わ」段及び語尾の時は「ㅇ」と発音する傾向にあった。

ところが、「ん」が語尾にくる場合には、次にくる音によって「ん」の音が変わる。例えば、「蜜柑」[みかん]は[미깡]と発音するが、次に「ま」段がくる場合の「蜜柑も」[みかんも]は[미깡모]、「だ」段がくると「蜜柑だ」[みかんだ]は[미깡다]となる。また、語尾の表記は「円」[えん]は[엔]であるが、次が「ば」段である「円暴落」[えんぼうらく]は[엔보우라꾸]、そして「だ」段の「円高」[えんだか]は[엔다까]と発音される。

(3) 「か」段・「た」段の表記

語頭・語中・語尾にくる「か」段・「た」段・「ば」段の表記については、すでに第1章で分析を行った。本節では、語頭にくる清音の「か」段・

「た」段や濁音の「が」段・「だ」段を取り上げて、再び韓国語の激音・平音をそれぞれ当てて調査する。

ここでは、一九九九年、韓国の「国立国語研究院」が発表した「ローマ字表記法試案」や日本語のローマ字表記を参考にして新たな表記を考えて行きたい。聞き取り調査に当たって、学生には例えば「鹿児島[かごしま]①、②」のように問題を出し、①の平音と②の激音をそれぞれ読み上げて、[か]に一番近い発音の番号に丸印をつけるように指示した。

@単語リスト

(か) 鹿児島 [かごしま] (地名)

①가고시마②카고시마⁽¹⁶⁾

(か) 画布 [かふ] ①가후②카후

(き) 岸 [きし] (人名) ①기시②키시⁽¹⁷⁾

(ぎ) 岐阜 [ぎふ] (地名) ①기후②키후

(く) 鞍 [くら] ①구라②쿠라

(ぐ) 具合 [ぐあい] ①구아이②쿠아이

(け) 蹴鞠 [けまり] ①게마리②케마리

(げ) 下痢 [げり] ①게리②케리

(こ) 腰 [こし] ①고시②코시

(こ) 五指 [こし] ①고시②코시

(た) 旅 [たび] ①다비②타비

(だ) 達磨 [だるま] ①다루마②타루마

(ち) 地理 [ちり] ①지리②치리

(つ) 対馬 [つしま] (地名) ①쓰시마②쯔시마⁽¹⁸⁾

(て) 手島 [てじま] (地名)

①테지마②테지마

(で) 弟子 [でし] ①데시②테시

(と) 都市 [とし] ①도시②토시

(16) 日本でのローマ字表記は「Kagoshima」である。これを韓国の「ローマ字表記法試案」に基づいて書けば、語頭の清音「Ka」=「か」は「카」で表記される。

(17) ローマ字表記は「Kishi」である。韓国の「ローマ字表記法試案」に基づけば、語頭の清音「Ki」=「き」は

「키」で表記される。

(18) 本章の第1節で「つ」に対しては激音、濃音、平音を当てて見た。ところが、現在韓国で「つ」を「쓰」と表記しているの、①・②共に濃音の「ㅌ」・「ㄸ」を当てて調査を行った。

(ど) 殿 [どの] ①도ኑ②토ኑ

この単語リストの聞き取り調査の結果をまとめたのが、次の表 (三)「語頭の清音と濁音」の韓国語表記である。

表 (三)「語頭の清音と濁音」の韓国語表記

	①平音		②激音	
	人	%	人	%
か	2	1.79	110	98.21
が	109	97.32	3	2.68
き	4	3.57	108	96.43
ぎ	110	98.21	2	1.79
く	5	4.46	107	95.54
ぐ	108	96.43	4	3.57
け	6	5.36	106	94.68
げ	110	98.21	2	1.79
こ	9	8.04	103	91.96
ご	105	93.75	7	6.25
た	10	8.93	102	91.07
だ	104	92.86	8	7.14
ち	13	11.61	99	88.39
つ	1	0.89	109	97.32
て	8	7.14	104	92.86
で	108	96.43	4	3.57
と	7	6.25	105	93.75
ど	110	98.21	2	1.79

現行の日本語の韓国語表記は語頭にくる清音を平音で表記しているが、以上の結果から、語頭でも日本語の清音は韓国語の激音で表記されるべきであることが判明した。現行に基づいた場合、日本語の語頭がそもそも清音であるのか、濁音であるのか韓国語の表記からは区別が付かない。すなわち、韓国語をみて発音すれば、日本語の清音と濁音の区別ができず、日本語と乖離が生じ、韓国人の日本語発音がおかしくなる原因になる。

(4) 長音の表記

第1章の2節で長音表記の問題点を分析したが、それに基づいて同じく聞き取りの調査を実施し、日本語に近い韓国語表記を探ることにす

る。この際、学生には例えば「a、b」の長音と短音をそれぞれ読み上げて、それぞれの発音に一番近い番号を①と②から書いて書くように指示した。

㊤単語リスト

a 이이다

b 이다

①飯田 [いいだ] (人名)

②井田 [いた] (人名)

a 소우시끼

b 소시끼

①葬式 [そうしき]

②組織 [そしき]

a 시쿄우

b 시쿄

①市況 [しきょう]

②死去 [しきょ]

a 오오사까

b 오사까

①大阪 [おおさか] (地名)

②小坂 [おさか] (地名)

この長・短音の単語リストをもつて聞き取り調査を行った結果、調査に協力した学生全員の100%が長短音の区別ができた。つまり、この結果を裏返せば、日本語の韓国語表記の際、長音の表記をしないと、誤解を招く可能性があることを示している。したがって、日本語の長音を韓国語表記する時は、その長音を韓国語表記法に当てはめて省くのではなく、明示的に表記した方が日本語の発音に近いことがわかった。

以上、本章では、次のような結論を得ることができた。一つ目は、日本語の語頭の清音を韓国語の激音で表記する。二つ目は、日本語の語頭以外の清音は韓国語の濃音に表記する。三つ目は、「ん」は「ㄴ」・「ㄹ」・「ㅇ」として区別し

てつかい、[つ]を[쓰]で表記する。四つ目は、日本語の長音を省略するのではなく、韓国語の文字で表記することである。次章では、この結論に基づいてより正確な「日本語の韓国語表記試案」を作成する。

第3章 「日本語の韓国語表記試案」

本章では、現行の日本語の韓国語表記における問題点を解消する新たな「日本語の韓国語表記試案」を呈示し、それに基づいて日本語の韓国語表記をする。

まず、第2章での調査結果に基づいて50音を整理し、「日本語の韓国語表記試案」と名付けて示す。

㊠「日本語の韓国語表記試案」

あ段

아아 이이 우우 에에 오오

か段

카카 키키 쿠쿠 케케 코코

が段

가가 기기 구구 게게 고고

さ段

사사 시시 수수 세세 소소

ざ段

자자 지지足足 제제 조조

た段

타타 차차 투투 테테 토토

だ段

다다 차차 투투 데데 도도

な段

나나 니니 누누 네네 노노

は段

하하 히히 후후 헤헤 호호

ば段

바바 비비 부부 베베 보보

ぱ段

파파 피피 부부 페페 포포

ま段

마마 미미 무무 메메 모모

や段

유유 요요

ら段

라라 리리 루루 레레 로로

わ段

와와 을을

ㄴ (さ・ぎ・た・だ・な・は・ら段の前)

ㄹ (ば・ぱ・ま段の前)

ㅇ (か・が・や・わ段の前、語尾)

っ

*但し、①日本語の語頭の清音を韓国語の激音で表記する原則を適用すること。

②語頭以外の日本語の清音(か・た・ぱ段)は、濃音(ㄸ・ㅌ・ㅍ・ㅍ)として表記すること。但し、「つ」は語頭でも濃音表記をすること。

③日本語の長音を省かず明記すること。

④語尾の「ん」の次に音節がくる場合は上に従って表記すること。

現行の日本語の韓国語表記において問題のある表記を、「日本語の韓国語表記試案」に基づいて正しめることにする。

例えば、日本語の語頭にくる清音の「笠井」[かさい] (人名) を、現行は[가사이]と表記しているが、[카사이]にすべきである。また、語中の「中野」[なかの] (人名) は、現行の[나카노]ではなく、[나까노]と表記する。なお、語尾にくる「真理子」[まりこ] (人名) は、現行の[마리코]ではなく、[마리꼬]と表記する。つまり、語頭の清音は激音、語中や語尾の清音は濃音で表記する。

濁音の場合は、語頭・語中・語尾のいずれも平音として表記する。例えば、「祇園」[ぎおん] (地名) は [기웅]、「参議院」[さんぎいん] は [산기잉]、そして「栃木」[とちぎ] (地名) [토찌기] と表記する。

そして、現行では「ん」を一律に「ㄴ」と書いているが、「ㄴ」(さ・ぎ・た・だ・な・は・ら段の前)・「ㄹ」(ば・ぱ・ま段の前)・「ㅇ」(か・が・や・わ段の前・語尾) と区別して表記すべきである。つまり、「電話」[でんわ] は [덴와]、「心齋橋」[しんさいばし] (地名) は [신사이바시]、そして「本町」[ほんまち] (地名) は [홀마찌] と記す。

なお「つ」については、例えば語頭であつても「対馬」[つしま] (地名) を [쓰시마] ではなく、[쯔시마] と表記する。つまり「つ」は語頭・語中・語尾を問わず濃音で表す。

長音は、韓国の長音の表記式のように文字として表さないでおくのではなく、表すようにする。例えば、「大林」[おおばやし] (人名) は現行の [오바야시] ではなく、[오오바야시] のように表記する。

以上、聞き取り調査の結果を踏まえて作った新たな「日本語の韓国語表記試案」を取り上げた。これは現行の日本語の韓国語表記における問題点を補ったものであるが、但し書きにも明記している前提条件を厳守すること、そして「ん」や「つ」の表記に注意する必要がある。なぜなら、この前提条件が満たされない限り、現行のような表記となってしまうからである。

結びにかえて

現行の日本語の韓国語表記における問題点を考察してきた。その問題点は四つに整理することができる。つまり、「日本語の語頭の清音を韓

国語の激音表記を避けて平音に表記」していること、「つ」を [쓰]、「ん」を一律に「ㄴ」と表記すること、そして日本語の長音を韓国語表記に合わせて省いて表記していることである。このような現行の日本語の韓国語表記は、実際の日本語の発音とは乖離がある。

ところが、一九九九年、韓国の「国立国語研究院」は現行のローマ字表記が韓国語と乖離があるのを指摘しつつ、新たな韓国語に対する「ローマ字表記法試案」を発表した。これと同様に、以上で確認してきた日本語の韓国語表記においても新たな表記方法の必要性を感じたのである。そこで、このローマ字表記法試案」を参考にしつつ、問題のある発音表記の部分を日本人に聞き取らせて、それに基づいて新たな「日本語の韓国語表記試案」を作成することにした。ここで得られた結果は以下の五点である。

すなわち、日本語の語頭の清音を韓国語の激音で表記する原則を適用すること、語頭以外の日本語の清音の「か・た」段や「ば」段は、濃音 (ㄱ・ㄷ・ㅌ・ㅍ・ㅈ) として表記すること、長音を省かず明記すること、「ん」を「ㄴ」(さ・ぎ・た・だ・な・は・ら段の前)・「ㄹ」(ば・ぱ・ま段の前)・「ㅇ」(か・が・や・わ段の前・語尾) と区別して書くこと、「つ」を [쓰] と表記することである。この表記に従えば、日本語の発音にもっとも近い韓国語の表記ができる。

また、この「日本語の韓国語表記試案」による日本語の韓国語表記は、韓国人の正確な日本語習得にまで繋がるものと思われる。「日本語の韓国語表記試案」によれば日本語の平音と濁音の区別ができ、現行の弱点を克服することができるだろう。この日本語を韓国語で正確に表記する試みは、日韓の円滑な意思疎通はもとより、韓国人の日本語教育にも役立つものと期待できる。